

1. まえがき

この報告は、戸外レクリエーションの構造を分析し、その発生需要予測をおこなうための方法についてのものである。ここでの中心的な研究目的は、レクリエーション参加回数と経験率の関係を明らかにすることである。この研究は、下にあげる実態調査¹⁾に基づき、他の二、三の資料を併用させておこなったものである。

2. レクリエーション発生需要予測の方法

(1). 概要 レクリエーション計画にとって、まず知られねばならないことは、どのレクリエーションに対して、どの位の需要量があるかということである。図-1は、このニ要を明らかにするための研究方法を示している。おこなわれる作業をまとめて列挙すると、次のようである。

- ①. レクリエーションのグループ化。
- ②. レクリエーション発生と、社会経済的因子との関係づけ。
 - ・総レクリエーション参加量の把握。
 - ・レクリエーション参加と経験率の関係づけ。
 - ・経験率と社会経済的因子の関係づけ。
- (2). 経験率の導入 レクリエーション需要予測にあたっての困難の一つは、資料に対する信憑性の低さということである。これは諸調査におけるレクリエーションの概念規定がはっきりしていないことと、レクリエーション量などのものでとらえると、誤差が大きいことである。一般に構成因子からつべき性質は、次の二要である。

①資料が得られやすく、信憑性に富む

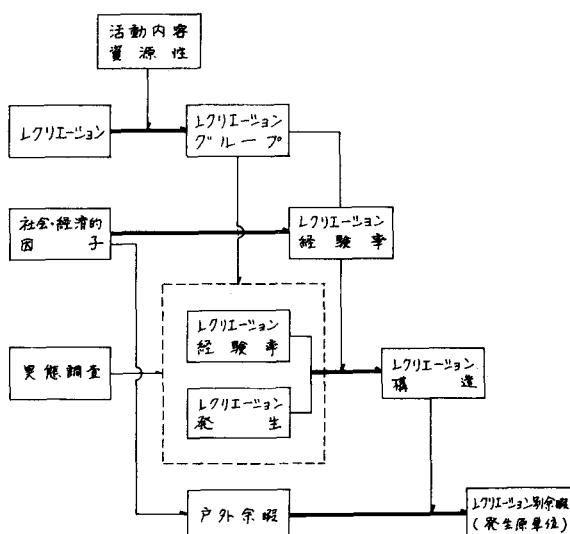
こと。

②因子が単純で、しかも多様性を有すること。

この条件を満足する因子として、レクリエーション参加経験率を導入して、レクリエーション発生と社会経済的因子との関連を試みた。

3. レクリエーションのグループ化。⁶⁾
- (1). グルーピングの必要性 レクリエーション計画にあたり、個々のレクリエーションをとりあつかうことは、無理なことであるし、それは絶えず変化する情勢の中で、安定的でないことから無意味

図-1 レクリエーション発生需要予測



なことである。そこで、計画に適応させようように、戸外レクリエーションを再編成しなければならない。

(2). グルーピング上の基準。 フィジカルプランのためのレクリエーション分類として、次の二つの観点から分類し、二つを対応させた。

- ①. レクリエーション活動の内容：見る、遊ぶ、体を（運動）の三つを、基本活動とすると、その組合せは、全部で7通りある。
 - ②. レクリエーションのあいに含まれる場所（資源）⁶⁾：オープンスペース、都市地域、人工開発地域、自然開発地域、自然保護地域の5通りである。
 - (3). レクリエーション・グループ。 レクリエーションを上の基準によって分類し、次の7つのグループを作った。
- ・観光旅行、・リゾート、・スポーツ、・カー・ピクニック、・近郊レクリエーション
 - ・都市レクリエーション、・住居地域レクリエーション。

表-1は、レクリエーショングループと資源の対応を示すものである。

4. レクリエーションの参加回数と、経験率の関係。

- (1). 作業。 レクリエーション参加回数と経験率の両には、一定の関係があるので、その関係を定めなければならない。その作業は、図-2によって、なされた。
- (2). 結果と考察。 この作業結果は、図-3に示す。この中で、係数a. 各のもつ意味は次のようなものと考えられる。

- ・a：レクリエーション参加の頻度
又は嗜好性を示す。いか大き
い程、同じ経験率でも参加が
大きい。
 - ・s：その変化のよへの影響を決め
る。習性を示す。
- 係数a. sによって、表-2のように
レクリエーショングループをI II III IV
Vにタイプ分けした。

表-1 レクリエーショングループと資源との対応

資源	資源との対応				
	オープンベース	都市地域	人工開発地域	自然開発地域	自然保護地域
観光旅行	●	○	○		
リゾート		○	●	○	
スポーツ			○	○	●
カー・ピクニック			○	●	○
近郊レクリエーション		○	●		
都市レクリエーション		●	○		
住居地域レクリエーション	●				

図-2 レクリエーション参加回数と経験率

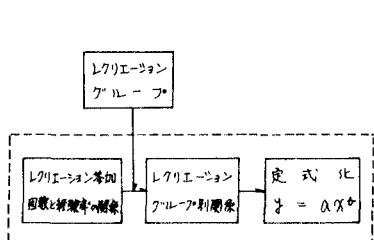
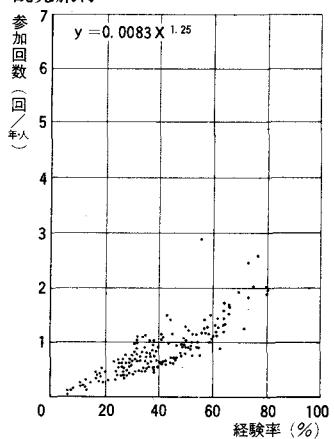


表-2 レクリエーション「II-7」のタイプ分け

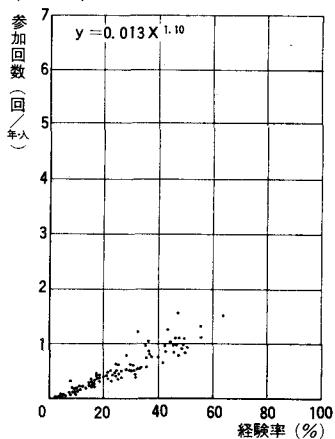
係数 タイプ	a	s	レクリエーション グループ
I	大 0.018～0.022	中 1.18～1.31	都市レクリエーション
II	大 0.018～0.022	小 1.03～1.18	カー・ピクニック 近郊レクリエーション
III	中 0.008～0.014	中 1.18～1.31	観光旅行・スポーツ
IV	中 0.008～0.014	小 1.03～1.18	リゾート
V	小 0.003～0.005	大 1.40～1.66	住居地域レクリエーション 自然開発地域 自然保護地域

図-3 レクリエーションの参加回数と経験率

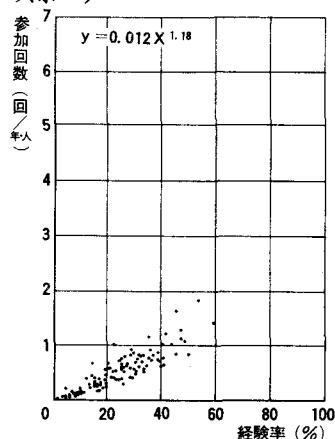
観光旅行



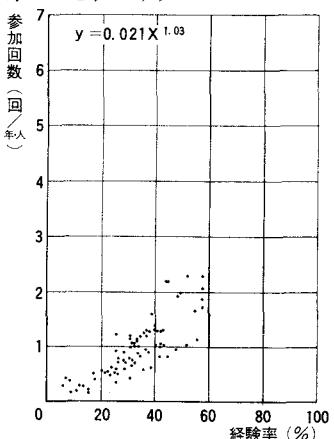
リゾート



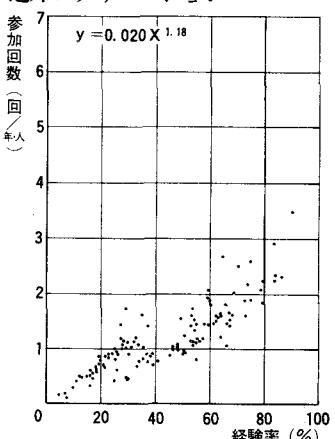
スポーツ



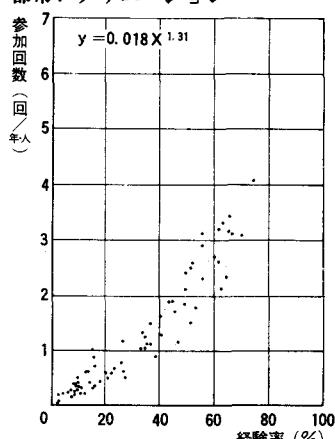
カー・ピクニック



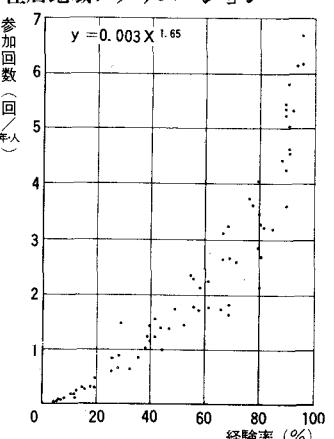
近郊レクリエーション



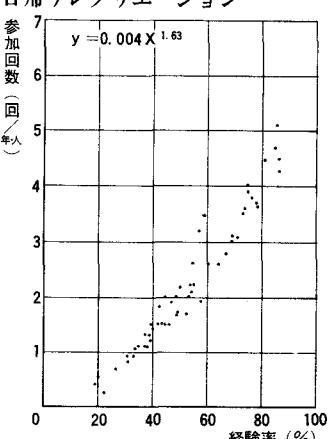
都市レクリエーション



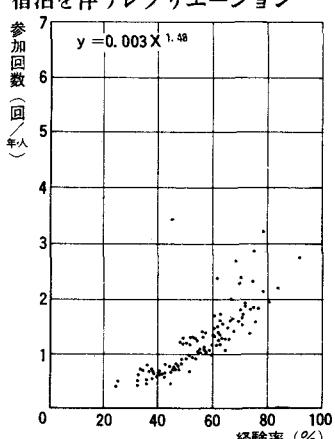
住居地域レクリエーション



日帰りレクリエーション



宿泊を伴うレクリエーション



(3) 信頼性、定式化した各々のレクリエーショングループに対しては、いずれも相関性は高く、相関係数0.80以上であった。

5. 結論と今後の問題

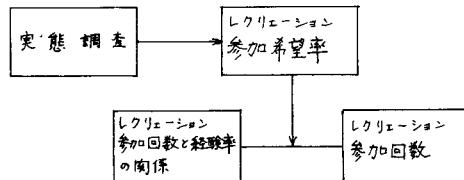
以上レクリエーション発生需要予測の方法の中で、レクリエーション参加と経験率との関係について考察をあこなった。結論的にいえることは、

- (1). 分類されたレクリエーションに特徴が認められること。
- (2). 将來のレクリエーション経験率がわかれば、レクリエーション需要予測に、この特徴を利用できること。その例として、レクリエーション参加希望率をもって、将来的経験率と仮定する方法がある。(図-4)

今後の問題としては、

- (1). 将來の経験率を求めるために、経験率と社会経済的因子の関係を明らかにすること。
- (2). 戸外余暇の総量を戸外レクリエーション需要のユニトロール・トータルとするために、戸外余暇の利用についての研究を深めること。

図-4 参加希望率を使った場合の需要予測



この報告の作成にあたっては、東工大、鈴木忠義助教授にいろいろお世話をいただいた。

6. 資料と参考・引用文献

- 1). 京葉臨海地域レクリエーション実態調査 昭和39年 東大 鈴木研.
- 2). 国民の旅行に関する世論調査 昭和39年 総理府
- 3). 消費者動向予測調査 昭和35年下 経済企画方
昭和39年上
- 4). 大都市圏のレクリエーション需要に関する世論調査 昭和41年 総理府
- 5). 観光の実態と志向 昭和39年 日本観光協会
昭和41年
- 6). A User-Resource Recreation Method.: National Advisory Council on Regional Recreation Planning.